



川崎瑞恵

かわさきみずえ。平成7年(1995年)7月20日生まれ。中学生の時から卓球を始める。高校3年生で、聴覚障がい者の総合スポーツ競技大会デフリンピックソフィア2013(ブルガリア)に卓球女子日本代表として出場。大正大学4年生の今年、デフリンピックサムスン2017(トルコ)に2大会連続で出場、卓球女子ダブルスと女子団体で銅メダルを獲得。ドライブが得意技。小平市在住。

デフリンピックをもっと広めたい



もあり、中学校の部活動から本格的に卓球を始めました。その後、着実に実力をつけ、高校3年生の時にデフリンピックソフィア2013(ブルガリア)に出場。大学4年生になった今年、銅メダルを獲得したサムスン大会は2大会連続の出場となりました。

「大会では補聴器の使用が禁止されていますが、同じチームのメンバーとは大会前にしっかり話し合っているのだから、試合中の息も合っています。また、試合会場で応援してくれる人たちの気持ちは伝わってくるので、試合中とはとても頼もしいです。」

聴覚障がい者のオリンピック「デフリンピック」で銅メダル

川崎選手は、今年7月に行われたデフリンピックサムスン2017(トルコ)で、卓球女子ダブルスと女子団体で銅メダルを獲得しました。

4年に一度開催される「デフリンピック」。聴覚障がい者のオリンピックとして、夏季大会は1924年にフランスで、冬季大会は1949年にオーストリアで初めて開催された歴史のある大会で、パラリンピックとは別に開催されています。聴覚障がい者自身が運営し、参加者が国際手話で友好を深められることが特徴です。また、競技はスタートの音や審判の声による合図を視覚的に工夫する以外、オリンピックと同レベルで行われます。

卓球は中学生の時から本格的に

母親や姉が卓球をやっていたこと



「大会では補聴器の使用が禁止されていますが、同じチームのメンバーとは大会前にしっかり話し合っているのだから、試合中の息も合っています。また、試合会場で応援してくれる人たちの気持ちは伝わってくるので、試合中とはとても頼もしいです。」

「国際大会では、中国やヨーロッパのレベルが上がって、若い人も増えてきたので、もっと頑張らないと厳しい。卓球の新しい技術やさまざまな戦術に試合で対応していくこと、判断力をつけることが大切。でも、そこが難しいと思います。」

川崎選手は、聴者と一緒に練習を続け、さらに高いレベルを求めています。

「来年から社会人になります。デフリンピックの知名度を上げるために、大会などで勝ち上がり、4年後は今回よりもいい成績を取れるようにしていきたい。1日1日を大切にしたい、いろいろなことに挑戦していきたいと思います。」

